



急性発疹症について講演する日野先生（右）と司会の法貴先生（左）



豊富な講演内容に100人を超える参加者が集まった

*世話人会の日程は毎月第4金曜日です。
支部についてのご意見や企画案などを
お寄せください。

- ① 健康情報テレホンサービス
- ② 支部担当事務局の交代

【報告】

- ① 第28回日常診療経験交流会・プレ企画
(8・3)
- ② 第2回病診連携エッセンス交流会 (9・7)
- ③ 第34回保団連医療研究フォーラム (大坂) (10・13～14)
- ④ 第28回日常診療経験交流会 (10・27)

【協会・保団連行事】

- ① 第28回日常診療経験交流会・プレ企画
(8・3)
- ② 第2回病診連携エッセンス交流会 (9・7)
- ③ 第34回保団連医療研究フォーラム (大坂) (10・13～14)
- ④ 第28回日常診療経験交流会 (10・27)

世話人会だより

- ① 第11回プライマリケア研究会 (8・24)
- ② 第9回ファイアサイド・ディスカッション (8・31)
- ③ リスクマネジメント研究会 (9・14)
- ④ 第19回胸部X-P読影会 (9・20)
- ⑤ 阪神淡路大震災25年のつどい (2020・1・18)

西宮・芦屋支部は8月24日に兵庫県農業会館会議室でプライマリケア研究会を開催。「流行している急性発疹症の臨床と対応」「麻疹、風疹、手足口病など」をテーマに、関東中央病院・皮膚科特別顧問の日野治子先生が講師を務め、医師・薬剤師ら121人が参加した。司会を務めた法貴憲支部長（西宮市・法貴皮膚科）の感想文を掲載する。

昨日の風疹・麻疹の流行を受けて、西宮・芦屋支部では8月24日、講演会を開催した。非常にタイムリーな講演とあって、100人を超える参加があった。日野先生は麻疹ウイルスの感染経路は空気感染、飛沫感染、接触感染があり、その感染力が非常に強いことを強調された。無抗体集団では100人に1人の発症があれば、12～14人に感染するということを話され、その対策の重要性に触れられた。それに続いて、コブリック斑・全身の発疹をきれいなスライドを交えて、説明された。また数年前に関東で診られた、異形麻疹は不活化ワクチン接種によるアレルギー反応

で、コクサッキーA、B、エコー、エンテロなどの数種類のウイルスが関与していく、年に2～3回罹患することもまれではないということであった。手足口以外にも肘や膝、臀部にも水疱が出現する。これらもすべてスライドで説明された。この他、伝染性紅斑、その原因であるヒ

の可能性があり、修飾麻疹は生ワクチン接種後に、充分な免疫を得られなかつた場合などの原因であると説明された。一方風疹に関しては、妊婦に感染して起こる「先天性風疹症候群」（CRS）に対する詳細な説明があった。CRSでは、先天性白内障、心臓奇形、難聴の症状があり、妊娠1ヶ月では、ウイルス検出率が59%で、4ヶ月でも7%の検出率があるので、注意が必要であり、CRSを診断した際は、直ちに保健所に届ける必要性を強調された。また全国の風疹患者数は、2013年のピーク時から減少傾向であったのが、2018年から再び上昇しており、しばらく途絶えていたCRSが今年はすでに3例報告されているようである。

風疹の感染経路は飛沫感染のみであるが、データから見れば、我々が気を付けて診なければならぬ。なお、CRSのみならず麻疹、風疹ともにできるだけ早く保健所に届け出る必要がある。

手足口病は、エンテロウイルスの感染で、コクサッキーA、B、エコー、エンテロなどの数種類のウイルスが関与していく、年に2～3回罹患することもまれではないということであった。手足口以外にも肘や膝、臀部にも水疱が出現する。

トバルボウイルスB19による合併症につき、胎児水腫や流産、また貧血などの造血障害などの説明があった。最後に麻疹・風疹の抗体価の説明があり、麻疹ではEIA法（IgG）=16・0以上、風疹ではHI法（IgG）=1・32以上が陽性であると説明された。一貫して豊富なスライドでの講演で、皮膚科にとつても小児科・内科にとつても有意義な1時間半の長丁場の講演であった。

【西宮市・法貴皮膚科 法貴憲】

早期診断・早期対処で急性発疹症の蔓延防ごう プライマリケア研究会 感想文

麻疹・風疹・手足口病などの知識を学ぶ

県
庫
保
険
医
協
会

西
宮
支
部
ニ
ュ
ー
ス

No. 350
2019・9・25

発行 兵庫県保険医協会 西宮・芦屋支部
西宮市甲風園一丁目十五号
連絡先 兵庫県保険医協会
電話 ○七八三九三三一八〇一

第9回ファイアサイドディスカッション 感想文

西宮・芦屋支部は8月31日に西宮市立勤労会議室で第9回ファイアサイド・ディスカッションを開催。「事実と想像一判断情報は事実ですか?思ひこみではないですか?」をテーマに西宮市・伊賀内科循環器科の伊賀幹二先生が講師、西宮市・半田医院の半田伸夫先生が司会を務め、医師・医学生ら14人が参加した。参加いただいた先生の感想文と参加者のアンケートを一部掲載する。



感度・特異度や新聞報道など多様な内容を討議した



中島先生は安全は動的なプロセスだと解説した

新しい医療安全へのアプローチ方法 「Safety-II」を紹介

西宮・芦屋支部は9月14日に西宮市立勤労会館でリスクマネジメント研究会を開催。「医療安全への一つのアプローチ: Safety-I & Safety-II」をテーマに、大阪大学医学部附属病院中央クリティカルマネジメント教授の中島和江先生が講師を務め、医師・メティカルスタッフら23人が参加した。司会を務めた西宮市・半田医院院長の半田伸夫先生の感想文を掲載する。

従来、医療事故が起つた場合には、その背後にある多くのインシデントの氷山の一角であり、ひとつのがんモデルとして捉えてきた。たとえば、薬剤の誤投薬があった場合、ダブルチェックがうまく機能しなかつた、薬剤ラベルの認識がうまくいかなかつたという問題点が出てきた。現場は、トリプルチェックをする、薬剤ラベルをよ

り解りやすくするなど、その問題点の解決策を上奏する。しかし医療事故はまた別の形で起つて、また別の解決策を策定する。

これが、従来の複雑系に対する静的対応であり、Safety-Iの考え方。

これに対して、普段の病院業務では、多くの薬剤の選択、投与は99%以上ミスなく行われている。瞬時に発生する問題に対しても、有機的に対応ができる。すなわち、ある時間の中で、多くの仕事をこなさないとならないという制約の中で、突然に発生する新たな指示、催促という擾乱(かきみだすこと)を、日々うまく対応している。これこそが安全である。

つまり安全とは動的なプロセスであり、何事もなくうまく行われることそのものであると先生は説明した。そして、日常のうまくいっていることこそが、安全であり、そのことから、ようやくいくシステムや、方法を模索するのがSafety-IIの概念である。

医療現場のようなシステムは複雑適応系と呼ばれ、動的にとらえる必要がある。今述べたような対応がレジリエンス・エンジニアリング理論に基づいたものである。極めて新しく、勉強になった。

【西宮市・半田医院 半田 伸夫】

・久しぶりに伊賀先生の議論の空気に触れることができて身が引き締りました。本日のディスカッションを通してだけでも議論の前提と定義の重要性を再認識することができました。

(医学生)

・なかなか日常的に情報に対して批判的に見る習慣はありません、見ようといざ思つても方法がわからないものでしたが、いくつもの具体例を交えてご講義いただいたことで、その一部を感じることができました。どのようにして事実を見るかもとてもむずかしいと感じたのでその練習も大切だと思いました。

(医学生)

・大変興味深い内容でした。criticalにデータを読み、判断することの重要性を痛感しました。knowledgeだけでなくwisdomを身につけられるよう努力します。(医学生)

(医学生)

・実習を終えて、忘れていたことの復習とさらなる学びのために参加させていただきました。やはり何においてもしないと忘れてしまうということが感じられました。テスト続きの中でも実習で学んだことを反芻する機会が必要と感じられ、今後の方針としたいと思います。また、多くの先生方の意見や視点を知ることができます。

(医学生)

・色々とお話を聞けて興味深く参加させていただきました。どうもありがとうございました。

(看護師)

サンタ論法（ある薬を飲んだ→治った→薬が効いた?）から始まり、批判的文献の読み方、そして、数字をどう読むかなど内容は盛りだんだつた。

さて、ここで問題を考えていただきたい。コレステロール治療薬についてである。①5年で心筋梗塞を30%減少させる。②あなたは50歳で、コレステロール300 mg/dlである。③経済的にはめぐまっている。

④薬の副作用はほとんどない。もし、あなたが患者なら治療を受けるだろうか? (各人で答えは様々だと思われるが、この30%減少が有意義なものであるかがポイントである)

話題は、感度・特異度となつた。「感度と陽性的中率を混同してないですか?」と問われたが、まさにその通りであった。検査前確率の設定が必要となる。

さらに、話は新聞報道に及んだ。言葉の定義自体があやふやなため、厳密な論議が難しい。

会員以外にも、伊賀先生と繋がりのある学生さん、医局の先生、また、英国での臨床経験のある看護師さんなど多くの参加者があつた。そして、参加者全員が発言の機会を与えられ、非常に有意義な時間を過ごせた。講師の伊賀先生には次回もぜひお願ひしたい。

【西宮市・藤森歯科クリニック 藤森隆史】